

大旦町会だより

第119号

■発行日
2023年12月30日
■発行責任者
鳴原 久
■編集・印刷
齋藤 馨



四五人も集まったクリスマス会 ビンゴゲームで盛り上がる

健全育成部では一二月二三日、恒例行事の楽しいクリスマス会を開き、実に四五名という多くの子ども達が参加しました。昨年はコロナ感染防止から二グループに分散して行い

ました。今回は感染が落ち着いてきたことから、一度に実施しました。最初に挨拶に立った町会の大槻副会長から「クリスマスは何宗教? 除夜

の鐘は何宗教? 元朝参りは何宗教?」と矢継ぎ早に質問され、皆真剣な顔になって考え始めました。普段何気なく行っている行事について考えさせられました。

感染は落ち着いたとはいえ油断はできないので、内容はビンゴゲームに限定しました。始めはシーンとして番号カードを見つめていたが、ゲームが進むうちにあちこちから「リーチ!」の聲が上がって雰囲気次第に盛り上がってきました。

リーチがかかった子どもはじっとして居られず、前の方に陣取って「ビンゴ」の瞬間を、今か今かと必死に待っている様子は何とも微笑ましい。番号を読み上げる声は次第にボリュームが上がってくるが、その声がよく聞こえない。役員さんから「みんなー静かに!」との注意が飛び、激闘の結果手に入れた商品をお互いに見せ合いました。一喜一憂していました。毎回、良い企画を考え



【こんなに沢山の子ども達が参加し、大成功でした】

ることは大変ですが、今回も大いに盛り上がり、役員の皆さんが頑張った結果大成功でした。本当にお疲れ様でした。



今回の賞品の目玉は第一位から三位で、ちょっと嬉しいものでしたので、改めて記念写真を撮らせてもらいました。



岡山地区大運動会に大勢が参加 健闘するも成績は残念な結果に

一〇月八日に開催された岡山地区大運動会は天候に恵まれ、大旦町会からは約四〇名が参加しました。コロナ感染防止のため、午前中で全ての競技を終えました。

大旦町会からは若者から年配者まで参加し、熱戦を繰り広げましたが、残念な成績に終わりました。しかし、怪我する人もなく、大いに楽しむことが出来ました。体育部はじめ関係者の皆様、本当にご苦勞様でした。



桜土手のあんぽ柿 収穫作業を行う

一月二日、桜土手に植栽されているあんぽ柿が収穫時期を迎え、町会と桜守の会が協力して収穫しました。町会の皆さんにご協力を頂き、有難うございました。収益金は、環境整備に使わせて頂きます。



「ごみステーション ネットを交換する」

一〇月二三日、町内ごみステーションで破損が激しく、カラスの害を受ける恐れがある箇所のネットを、市からの補助を受け交換しました。

この他、日常的に利用者からネット修理の要請があった場合、衛生部が駆け付け修理を行っています。

なお、ごみの置き方によってはカラスの害を受けますので、お互いに気を配ります。

班長・役員合同で 集会所の清掃作業を



りながら利用されるようご協力をお願いします。



一〇月二三日、班長さんと町会役員との合同で、集会所の清掃を行いました。

この清掃は年二回実施され、一回目は五月二八日に第一班から一二班までを対象とし、今回は第一三班から二四班までが対象でした。

ガラス拭き、テーブルや椅子を片付け、カーペットを剥がすなど手間を掛けて掃除して頂きました。

また、二階の歴史館や集会所前広場の掃き掃除、エアコンネットのほこり除去等して頂きましたので、これからも気持ちよく使用できるようにになりました。ご協力いただいた各班長の皆さん、大変有難うございました。

「子どもを見守る会」懇談会で情報を共有

現在、大旦子どもを見守る会は一名で活動しています。お陰様で今年一年間、各会員の献身的な毎日の見守る活動により、事故もなく務めることができました。

一月一三日に懇談会を開き、岡山駐在所から田口俊介主任をお招きし、冒頭日常の見守る活動について感謝の言葉を頂きました。続いて東部管内の事故発生状況の報告を受けました。特に児童の被害は発生していないとの報告にほっとしました。

私達の活動状況を報告し、見守る活動の注意点についてご指導を頂きました。全会員から、自分が担当し



ているポシションでの問題点や、日頃考えている事を発表してもらい、それらを全員で共有し、今後の活動に活かして頂くことにしました。

■道路いっぱい歩くので後ろから来る自転車を通れず、車道に出る場合があり、対向車との衝突が心配列の後ろから来る自転車は注意喚起のベルを鳴らすよう家庭で指導を

■ほとんどの児童は挨拶しても返してくれないのはちょっと残念

■班がまとまっており、時間は守るし、班長がしっかりしているのは嬉しい。

■忘れ物をすると慌てて事故に遭うので、気を配って欲しい。

■ポケットに手を入れて歩く児童が多い。手袋をし、手を出して歩いて欲しい。(転んだら大怪我のもと)

■当日欠席する場合は班長に連絡してもらい、班長から私たちに教えて欲しい。

■下痢等で急にトイレに行きたくなった場合、最寄りの民家を借りてもらう。日頃からお願いしておく。

■夏場になると変質者が出現するので、その場合は現場の見守りをお願いする。中学生や高校生も通るので、こちらから積極的に声を掛けています。

(以上)

コラム

「川柳会」の思い出

かなり前の話だが町会の会員で「川柳会」を作り、毎月例会を開いて作句に励んだ。先生は既に亡くなったが、一四班に住んでおられた穴戸昭一さんと、県川柳会の選者を務めた方でした。彼の提唱で僅か五人でしたが結成した。男性三人と女性二人だった。何しろ皆さんと素人で、穴戸先生から江戸時代からの歴史や作り方を教示頂いた。当然お酒が付き物で、アルコールが頭の回転を良くしてくれるようで、次第に腕も上がり、時々福島市や郡山市で開催される県川柳大会に連れて行ってくれた。自分の句が入賞し、参加者の前で吟じられた時の嬉しさは格別だ。

一二月一五日のNHKラジオ深夜放送で「ほやき川柳」を聞いていたら面白い句があり、書き留めておいたものを紹介し、今年のコラムの締めにした。

★来年もしんどいことは やめとこう

★デパートにおせちらせて 年を越す

★越すたびに荷物減らして また増える

★夢のまままた年を越す宝くじ 夜が明けた

★乗り越して家に着いたら 夜が明けた

※特に私がしんみりした句は

★今もって越せない母の目分量

【齋藤 馨】

